

委員会行政視察報告書

1. 視察概要

委員会名	情報化対策特別委員会
委員名	佐藤弘樹、木内知子、佐藤仁一郎、佐藤仁一、中鉢和三郎、遊佐辰雄、只野直悦、山田和明
視察日	平成26年11月27日(木)～11月28日(金)
視察先	1. 東京都千代田区(研修会) 2. 東京都台東区(行政視察)

2. 視察内容

視察項目	1. 広報誌作成研修会(広報活動研修) 2. 議会中継における映像配信への取り組みについて
視察内容 考察 【所感・課題 ・提言等】	<p>1. 広報活動研修について</p> <p>市自治体間の議会広報誌のコンクールや研修会等がないため、これまで先進町への視察を含め、試行錯誤の編集、活動を重ねてきた。</p> <p>今回、合併9年目にして待望の本格的な広報活動の研修が実現したのである。</p> <p>11月27日(木)午後1時～5時、11月28日(金)午前9時30分～午後2時の日程で株式会社インソース 釋 左枝 講師の下で、以下7つのテーマで受講した。</p> <ol style="list-style-type: none">1 広報活動とは？2 広報活動のポイント3 広報誌・パンフレット作成の流れ4 わかりやすい資料を作ろう5 レイアウトを考える6 配色のポイント7 総合演習 <p>まず冒頭に、議会の広報活動の目的は議会の活動方針や内容を市民に理解してもらい、共感してもらうことである。</p> <p>つまり、市民に判断材料としての議会情報をより正確に、より迅速に伝えることによって、住民と議会の間信頼関係を育成していくことが議会情報の基本であること。その実現のためには、住民の知ろうとするものと、議会の伝達しようとするものがマッチすることが、何より大切であることが強調された。</p> <p>そして、広報誌を市民に読んでもらうために、魅力的な見せ方や切り口を工夫した企画、レイアウト、取材、原稿作成と一連の作成の流れを学んだ。</p> <p>その流れの中で、講師が特に強調したのが、「求められるのは情報の正確さ、わかりやすさであり、これが大前提である」であった。このことは、わかっていたつもりでも改めて心に染みたことである。</p>

そして最後に、即、実用化に向けての「議会改革・活性化の取り組み」特集ページ作成にも挑戦し、研修を修了した。

この濃厚な研修を通じて、広報活動の基本を学び直し、まだまだわかりやすく、読みたくなる議会広報誌作成には、多くの工夫と研究の余地があることを認識した次第である。特に、例として示された、さいたま市議会の議会広報誌の斬新さには目から鱗の感を抱かされた。

2. 議会中継における映像配信への取り組みについて(行政視察)

議会中継における映像配信の取り組みについて、特にユーストリームによる委員会生中継については、開かれた議会を目指して導入し、本格実施1年目で平成 26 年4月より特別委員会も含め、全ての委員会で行っており、区民にも議員にも好評とのことであった。

また、委員会におけるパソコン等の使用に関する申し合わせも取り決めており、実施されていた。

本議会の目指すべき先進事例として参考になる内容であった。

この2日間の貴重な研修・視察を通じ、情報化対策特別委員会委員8名、新たな決意を持って議会広報活動の目的実現に向け、邁進することを表明し、報告とする。

以上